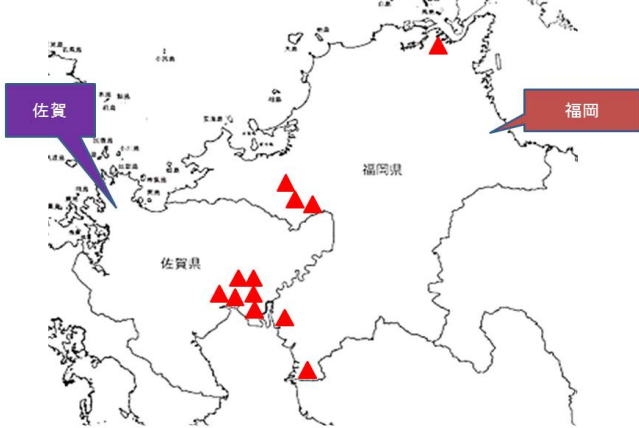


プリオン病の治療薬開発研究に向けた臨床疫学研究

研究分担者：福岡大学医学部神経内科学 坪井義夫

福岡・佐賀地区のGSS家系研究

Residence Location of GSS families



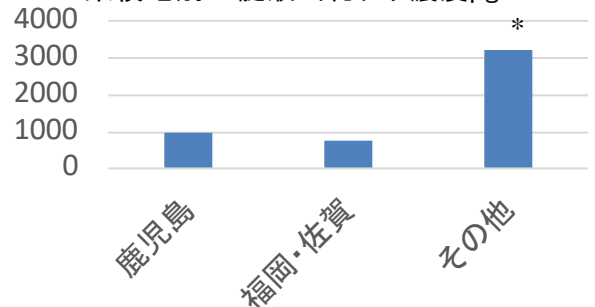
- ◆ 全国で発症した10例を超えるGSSのうち約半数が九州地区で発症しており特に福岡－佐賀地区・鹿児島が多い。
- ◆ 出身地まで含めると約7割が九州関連の発症であり、その登録数は増加している

集積地(福岡・佐賀、鹿児島)とその他の地域の比較

集積地別の発症年齢・罹病期間

	鹿児島 (N=14)	福岡・佐賀 (N=18)	その他 (N=9)
発症時年齢 (年)	55.9±5.9	58.7±7.7	55.4±8.9
罹病期間 (月)	57.5±34.0	56.7±25.0	43.7±24.3

集積地別の髄液当総タウ濃度pg/ml



*: p=0.01, vs. 福岡・佐賀

解説

- 九州地区(福岡・佐賀および鹿児島)にGSSの集積地がある
- 地域による臨床症状は九州地区以外のGSS発症者はやや罹病期間が短く髄液中の総タウ濃度が高い傾向にある
- 遺伝的背景が異なる可能性が考えられた